

聖書日課 『からし種』 2023.11.26-12.3

<p>11月26日 (日)</p> <p>詩編 12編</p>	<p>「主の仰せは清い。土の炉で七たび練り清めた銀。主よ、あなたはその仰せを守り／この代からとこしえに至るまで／わたしたちを見守ってくださいます」(7-8節)。約束を必ず守ってくださる真実な神への賛美。聖霊によってイエスを身ごもったマリアも、「主はわたしたちの先祖に仰せになった通り、とこしえに憐れみをお忘れにならない」と賛歌を献げた。</p>
<p>27日 (月)</p> <p>詩編 13編</p>	<p>「いつまで、主よ／わたしを忘れておられるのか。いつまで、御顔をわたしから隠しておられるのか」(2節)。世界中で、神に、誰かに、助けを求めながら消えていく一人ひとりの声を思う。今、わたしたちに何ができるだろう。ともに主を呼び求めることはできるだろう。世界中の人々が御救いに喜び踊り、「主はわたしに報いてくださった」と歌える日が来るように。</p>
<p>28日 (火)</p> <p>詩編 14編</p>	<p>「悪を行う者は知っているはずではないか。パンを食らうかのようにわたしの民を食らい／主を呼び求めることをしない者よ」(4節)。毎朝の食卓で、何気なくパンを食べていることを思う。傍らでは、戦争や災害で次々と失われていく生命が報道される。このようにわたしたちは知らされているはずではないか。朝一番に、平和の主を求める祈りを献げよう。</p>
<p>29日 (水)</p> <p>詩編 15編</p>	<p>「主よ、どのような人が、あなたの幕屋に宿り／聖なる山に住むことができるのでしょうか」(1節)。悪くなる一方のように見えるこの世を脱して、聖なる場所で主とともに暮らせればと思う時もある。ところが実は逆に、主のほうがこの世に来てわたしたちと住んでくださっている。わたしたちがあきらめず、心に真実のみことばをもって世に仕えていくためだろうか。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.11.26-12.3

<p>30日 (木)</p> <p>詩編 16編</p>	<p>「わたしは絶えず主に相對しています。主は右にいまし／わたしは揺らぐことはありません」(8節)。ここから11節までは、のちにイエスの使徒たちが心の支えにした箇所なので覚えておきたい。ペンテコステの日、彼らはこの箇所をもって「黄金時代の国王、国民の英雄ダビデも、イエスが主であることを知っていた！」と人々に宣言した(使徒2:25~28)。</p>
<p>12月1日 (金)</p> <p>詩編 17編</p>	<p>「あなたはわたしの心を調べ、夜なお尋ね／火をもってわたしを試されますが／汚れた思いは何ひとつご覧にならないでしょう」(3~4節)。詩人は自分の心を調べられる神を昼も夜も近くに感じ、火のような苦しみがあっても、主に試されていると受け取る。この思いは具体的に欠点があるかどうかに関わらず、神に対して精一杯の真実であるに違いない。</p>
<p>2日 (土)</p> <p>詩編 18編</p>	<p>「主はわたしの岩、砦、逃れ場／わたしの神、大岩、避けどころ／わたしの盾、救いの角、砦の塔」(3節)。「主の僕」と称する詩人を危機から救い出してくださった神への感謝と賛美が爆発する。旧約の信仰者から学びたいのは神に対するここまでの喜び。塵にすぎないわたしのために神が与えてくださった独り子の命を、わたしはここまで喜んでいるだろうか。</p>
<p>3日 (日)</p> <p>詩編 19編</p>	<p>「主の命令はまっすぐで、心に喜びを与え／主の戒めは清らかで、目に光を与える」(9節)、「蜜よりも、蜂の巣の滴りよりも甘い」(11節)。「あなたの心に喜びを与え、あなたの目に光を与える、蜜より甘いものは何ですか？」と問われたら何と答えるだろうか。まっすぐ清らかに「主の命令と戒めです！」と答える信仰を、主の日の礼拝からいただいきたい。</p>